

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月 22日

事業所名 たいむクラブTWO

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用者人数によって、パーティションの活用し、活動スペースを確保している。
	2 職員の配置数は適切である	○			人員配置基準に基づき、適切な人数を配置している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		建物の構造上、難しい部分はあるが、動線をしっかりと確保している。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			ミーティングを行い、情報交換等を行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			評価表を職員で共有し、要望に添えるようにミーティングを行っている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページにて公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	外部評価の機会がなかった為、今後検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員のスキルアップをはかり、内外研修の推奨をしている。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			相談支援と連携を取り、必要なニーズ、課題を把握して計画を作成しています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			現行のアセスメントツールも改善が必要な項目については、その都度、改善をしている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員間で話し合い、季節にあった活動や自立に向けた活動を取り入れている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			子どもたちの成長に合わせ、活動をステップアップしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			事前に活動内容を設定し、支援を行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動の中で個別支援をテーマに指導をしている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			当日タイムスケジュールを活用している。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			業務日報等で共有している。振り返りを行い、次回の支援に繋げている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			業務日報や支援経過記録を作成し、改善に繋げている。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			年2回のモニタリングを実施し、計画の見直しを図っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			基本活動を参考にし、支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援責任者が出席している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		下校時間の変更があった際は、FAX・メール等で連絡があり、共有が出来ている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		主治医と事務所の管理者、看護師と連携を図っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		電話にて、情報共有を行っている。また、ケース会議を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		サービス担当者会議を設け、事業者・学校・相談支援で情報を共有している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援管理者が出席している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	今後のイベントに交流する機会を設けていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○	参加できるように努めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		当日、指導に当たった職員が、自宅に送迎した際、保護者に様子をお伝えしている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		送迎時や面談の時間を利用し、悩みや意見を聞いたり、今後の支援方法等も一緒に考えるようにしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に契約内容や重要事項等を伝えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		電話対応に応じたり必要な場合は家庭訪問を行い必要な助言を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会等は行っていない。コロナウイルス収束後、検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった場合は担当者に伝え、適切に対応するように努めている。また、ミーティング等で共有し、再発防止に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動予定概要、行事予定に記載し、会報等はアプリケーション（コドモン）を活用し、配信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		施錠付き車庫へ書類、パソコンの管理を実施。緊急連絡先はすぐに目を通せる場所へ設置。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		利用者、保護者が理解できるまで、寄り添った配慮を実施している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域住民の方、保護者を招待するバザーを開催。現在、コロナウイルスにより開催中止。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルを作成、共有している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、地震、風水害、不審者対応を想定した訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		市が開催している虐待防止研修に参加し、社内研修にて共有している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		保護者の方へ説明、同意を頂き、個別支援計画書に記載をしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		昼食、おやつはアレルギー対応をしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を随時提出、共有をしている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。